地域の音楽普及と音楽文化の向上に邁進

シリーズ　“架け橋”の楽器店を訪ねて　Vol.2

ヤマハ音楽振興会（梅村充理事長）は、音楽文化向上に寄与する事業の一つとして、1999年から「ヤマハ音楽支援制度」を設け、『音楽奨学支援』『留学奨学支援』『音楽活動支援』『研究活動支援』、そして2010年からは『地域音楽活動支援』も加えて、5件の支援活動を行っている。

中でも『地域音楽活動支援』は、対象を地域の音楽グループや団体（学校除く）とし、応募受付窓口を楽器店に指定しているところに大きな特色があり、両者を結ぶきっかけにもなっている。

地域音楽振興は、特に地域に根を下ろす楽器店にとっては、事業の継続、発展を考える上で必要不可欠なテーマであることは論を俟たない。本誌では、これを好機と捉え『地域音楽活動支援』を有効に活用する楽器店を取材した。（澤野）

三重・四日市市　第一楽器

三重県四日市市を本拠に、鈴鹿市、愛知県の名古屋市、豊田市で計5店舗、更には同エリア内に音楽教室を27会場展開する第一楽器（服部勝彦社長）。『地域社会において、なくてはならない文化の拠点として信頼される企業・店づくりに総力を結集しよう。』を経営理念に、地域音楽振興に積極的に取り組んでいるが、その発足は昭和35年。同22年創業の第一自動車を母体に誕生した。

第一自動車はその後、社名をダイイチに変更し、マリンやバイクといったスポーツ事業を中心に、近年は福祉事業にも取り組んでおり、ダイイチグループ全体として音楽とスポーツ、福祉、つまり心身の健康、潤いに関わるビジネスに邁進している。

グループ会社マリーナ河芸（第三セクター）では、宿泊研修施設『海の学舎』を設け、その後『NPO法人海の達人』を立ち上げ、健常者のみならず障がい者にも海のスポーツの魅力を広めている。

服部勝彦社長

「第一楽器も、もっともっと世の中に貢献しなければいけないと、『NPO法人おとのわ』を三年前に作りました。これは当社のホール『ムーシケ』（237席）を、音楽のみならず広く多くの人々に活用してもらうことで、地域文化の発展に寄与したいと思って発足させたものです。将来はダイイチグループとして、トータルで何かできないか、そんなことも考えています」。服部社長は、地域文化の担い手としての将来像も視野に入れている。

10年で生徒30％増を実現

第一楽器は、四日市市文化会館の目の前に位置する。そもそもこの地に本店を設け、しかも本格的な音響設計によるホール『ムーシケ』を併設したのも、地域の音楽文化の推進者たらんとの、先代（創業者）服部逸男会長の決意があってのこと。

それを受け継ぐ服部社長も、音楽普及には並々ならぬ意欲を示している。特にここ10年の音楽教室整備の取り組みには目覚ましいものがある。

移転や統廃合により、13会場を新設あるいはリニューアルしたが、結果それ以前に比べ教室数は半減したものの、生徒数はなんと約30％もの増員を果たした。近年これだけの積極的投資、生徒増は他に例を見ないだろう。

「地域になくてはならない文化の拠点という、ちょっと大袈裟なスローガンを掲げて取

り組み、最終的には良い楽器を買ってもらう環境の整備に努めてきたわけですが、今日のようにインターネットでの購入が当たり前の時代になると、ますます地域が重要。地元に根ざした音楽普及、需要創造に取り組まないと、みんなネット販売にやられてしまいます。結局こういうことを地道にやって、対面販売に結び付けていくことが重要なんですね。

これまでは生徒を集めて、生徒に楽器を販売するという視点でした。しかし今は音楽が好きという人を育て、支援し、そのための企画やイベント、しかもそれ自体で採算が取れるものが重要になります」

服部社長は、地域密着こそ楽器店の生きる道と断言する。『地域音楽活動支援』についても、既に『フエフキーナ』と『四日市ジュニア・アンサンブル』という二つのグループを斡旋し、いずれも支援対象となった。

「両者とも支援金が得られとても喜んでいましたが、それにも増して感激していたのは、ヤマハが自分たちの活動を認めてくれたということ。活動の大きな励みになったんですね。これは非常に重要なことです」

ヤマハの『地域音楽活動支援』は、地域と共に歩む同店にとっても歓迎すべき追い風となっている。

四日市市では、文化の町にしたいという田中俊行市長の発案で、全国でも珍しい『全国ファミリー音楽コンクールinよっかいち』を2年前に開催。今年も開催が予定されているが、服部社長も当初から実行委員として尽力。またムーシケ附属少年少女合唱団『リトルビーンズ』の団長も務めるなど、率先垂範して音楽普及に努める。

「音楽は物凄く広い。いろんなジャンルがあって、いろんな人が楽しんでいると改めて痛感しました」

第一楽器は、音楽文化の推進者としての地歩を確実に固めている。

フエフキーナ

優しい音色に魅了され

フエフキーナは、女性6人のリコーダーアンサンブル。高校の同窓生で結成している合唱クラブの仲間で、月1回の午前中の練習後、「午後も何か活動したいね」という話から、早速結成することになった。

経験者も未経験者も一から基礎練習を始めたが、やればやるほど奥が深く、しかも心癒されるリコーダーの音色の優しさに皆魅了されたとか。

セントヨゼフ女子学園での演奏

高校や塾の文化祭、養護学校や病院への訪問演奏、保育園や幼稚園でのクリスマス訪問演奏など様々な活動を行ってきたが、ヤマハの音楽活動支援を受けて、2012年1月には初の自主コンサートも実現。これを機に更に研鑽したいと思っていたが……、徐々に事情が変わってきた。

「メンバーの半数以上が親の介護等で練習に集まることが難しくなってしまい、2013年4月に活動を休止せざるを得なくなってしまったんです。でも個々には練習したり、活動したりしていますので、またいつか再開をと思っています」と長友明子さん。メンバーはその日に備えて、時間が許す限り練習に努めているという。

四日市ジュニア・アンサンブル

夢はまたオペラハウスで

四日市ジュニア・アンサンブルは、学校を越えて、地域の子ども達による演奏活動を通じて、仲間の輪を広げ、生涯にわたって音楽を愛好する子ども達を育てることを目的に、代表の白井良昭氏が、1988年11月に旗揚げしたもの。

昨年2月に開催した第23回演奏会

以来定期演奏会はもちろん、市内各地の文化祭、福祉施設、学校などで演奏を披露し、1998年、2002年には日豪音楽親善団に参加。シドニー・オペラハウスや地元の学校での演奏も経験した。そうした活動が認められ、2010年には、『四日市市民文化奨励賞』を、2011年には『三重県文化賞　文化奨励賞』も受賞している。

更に「ヤマハの地域音楽活動支援で資金面も助かりましたが、それ以上にヤマハの評価を得たことで信頼が一層高まり、PR面でも非常に効果がありました」と白井氏。シドニーのオペラハウスで、もう一度演奏会を開くことが、楽団の将来の計画、夢だとか。